日本郵船株式会社

https://www.nyk.com/sustainability/

《将来に向けた取組方針》

外航海運業を中核事業の一つとする当社グループは、海洋環境や生息する生物を保全する責任を認識し、「日本郵船グループ 環境ビジョン」において特に対処すべき環境課題の一つに「海洋環境・生物多様性保全」を掲げ、「日本郵船グループ環境方針」に沿った活動を展開しています。具体的には安全の徹底による海洋汚染の防止や、新技術の積極的な実装による環境負荷物質の排出量削減、水中騒音の低減、船体付着物の低減のほか、海洋プラスチックの分布に関する分析や環境DNA収集を通じた生態系把握による実効性ある施策を共創し実践します。

〈具体的取組み事例〉

海水サンプルを活用した学術研究への協力

2020年から当社と千葉工業大学は、5㎜以下のマイクロプラスチックを主とした海洋プラスチックの分布状況を明らかにする為、世界に先駆けて採取が可能な世界中の海域を対象として海洋調査に取り組んでいます。また2022年からは東北大学を中心とした「ANEMONEコンソーシアム」に当社が参加し、環境DNA分析による自然共生社会の実現を目指すため、外洋での海水サンプルの提供を継続しています。

海水サンプルの採取を実施した船舶

森林再生プロジェクト「ゆうのもり」

手入れがされていない人工林を多種多様な生態系を育む天然林とするため、2024年から御殿場市にて、当社グループ社員の手で森づくりを進めています。

森林整備の様子

バラスト水による生物の越境防止

当社グループでは、国際条約に則ったバラスト水処理装置の搭載を計画的に進め、2024年には全船への搭載が完了しました。また今後の条約改正に向け、当社グループは日本船舶技術研究協会のメンバーとして、当社グループ運航船によるバラスト排水のデータ収集等に協力しています。